

特定非営利活動法人 冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク

2022(令和4)年度 事業報告書

(2022年6月1日～2023年5月31日)

2022年度事業概要

2022年度も引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響は受けていたが、様々な対策は行ないつつ、ほとんどの分野で前年度を上回る活動を展開していった一年となった。

指定管理者として運営する「海岸公園冒険広場」は、ひろびろ遊べるよう工夫を継続しながら前年度を大きく上回る来園者を迎えた。同じく指定管理者として運営する「のびすく若林」でも、昨年度拡充した屋外での活動を継続しており、「こんな時だからこそ外へ」というニーズを受け止め続けている。

こうした中、2022年5月にスタートした仙台市遊びの環境に関する実証実験「あ・そ・び・ば 仙台」を行い、屋内・屋外での多彩な場で遊び場の可能性を見出し、既存施設を活用した遊び場の可能性を示すと共に、来場者やプレーリーダーの様々な声から、遊び環境の再構築に向けた重要な手がかりを提示することができた。

同時に本年度は、遊び環境づくりにつながる新たな施策の動きが活きたものになるためにも、市民の主体的な動きの広がりが重要と考え、地域による遊び場づくりを応援する動きに前年度以上に力を入れて取り組んだ。その一環として、遊び場・遊び環境づくりに関わる勉強会の継続的な開催も含め、プレーカーの拠点でもある北山活動ベースの活動拠点化を進めた。支援・協力する遊び場活動については、準備中のものも含め、大幅に増加している。プレーカーで継続的にめぐる遊び場については、定期開催による居場所としての役割や子育て支援機能の強化に取り組んだ一年となった。

また、仙台市沿岸部の東日本大震災被災地域周辺での活動についても、海岸公園冒険広場を拠点としつつ、周辺地域一帯で継続した。震災10年を経てようやく本格的なまちづくりの動きが始まった地区もあり、これまでと同様に地域の思い出をつなぐこと、地域の魅力を伝えることを大切にしながら、遊び場・交流サロン・みどり再生活動など一体となった取り組みを続けた。

◎ 事業計画に掲げた「重点的取り組み」の達成度評価について

2022年度事業計画において掲げた6つの重点的取り組みについて、4段階の達成度評価を行なった。定款に沿った事業区分に基づく「1.～9.」の記載内容との対照と合わせ、本表にまとめる。

「重点的取り組み」 項目	主な事業	定款 区分	達成度評価 (◎-○-△-×の4段階)
① 海岸公園冒険広場の着実な運営と、周辺も含めた展開	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者としての海岸公園冒険広場の着実な運営 沿岸部の他の活動・施設とも連携しての賑わい・交流の創出 震災の「記憶」の保存・記録・発信や、経験を活かした事業による防災への貢献 冒険広場および周辺地域の魅力を引き出す、生き物調査・みどり再生活動 震災を伝えるほか、体験活動等も含めた学校の授業等への協力 	1. 2. 4. 5. 6. 8.	◎ 昨年度に引き続きコロナ禍の影響は受けているが、自主事業も含め、様々な工夫をしながら来園者を受け入れた。緑化フェアの機会も活かし、震災や防災・減災を伝える取り組みも続けている。
② 震災被害の大きかった地域を中心に取り組む遊び場づくり等	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災被災地域周辺での遊び場活動(東日本大震災復興支援財団子どもサポート基金事業) 上記活動の場を中心とした、サロン事業等の展開(真如苑寄付金による事業) 	1. 3. 5. 8.	◎ コロナ禍の状況は見つとも、計画を上回る回数を実施、できる限り定期的な開催を続け、子どもたちの居場所として役割を高めた。
③ 地域住民による遊び場づくり活動の促進・支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民などの遊び場づくり活動のはじめの一步の積極的支援 住民発意による遊び場運営の促進・支援(ハタチ基金助成金事業) 北山活動ベースを拠点とした市民ネットワークづくり 	2. 4. 5. 6. 8.	◎ 新たな地域からの市民レベルでの要請や、コロナ禍で休止していた活動の再開支援など、支援を行なった活動は計画の倍以上となった。併せて、北山活動ベースも活用してミニ学習会等を継続、ネットワークづくりにも取り組んだ。
④ のびすく若林と連携した、乳幼児親子への遊びの大切さの発信	<ul style="list-style-type: none"> のびすく若林の日常運営のなかでの、ふるさと広場も活用した外遊びの機会の創出 「おそとのびすく in 木ノ下公園」「出前のびすく」の継続的な展開 若林区内各所での遊び場活動とも連携した、新規事業の展開(前期剰余金活用事業) 	8.(8)	◎ 日常的な外遊びの取り組み「おそとのびすく」およびイベントの形をとる「のびすくプレーパーク」を、館外のふるさと広場で実施すると共に、出張形式の「おそとのびすく in 木ノ下公園」についても定期開催した。2022年度は新たに、自主事業として新たに「てくてくプレーパーク」を七郷地区でスタートさせた。
⑤ 子ども・子育て支援計画の策定も受けた、調査・提言・実践活動	<ul style="list-style-type: none"> 県内自治体の子ども・子育て支援計画の調査と施策動向の確認 仙台市が実施する遊びの環境づくり実証実験業務の受託実施 「仙台市百年の杜づくりプロジェクト推進計画」策定後の施策動向の確認・参画 「全国都市緑化仙台フェア」の機会を活かした発信の検討 	2. 3. 7. 8.	◎ 「仙台市遊びの環境に関する実証実験業務」に取り組み、遊び場・遊び環境の課題をあぶり出した。県立公園でのプレーパーク計画についてもアドバイザーとして支援した。
⑥ 組織運営基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> ここまで整えてきた組織体制の安定化 長期的な収支見直しを見定める 施策動向をにらみ、人材育成の方向を見出す 	9.	○ 事務局・海岸公園冒険広場・北山活動ベース共に、人員体制を整えた。長期的な収支見直しや人材育成の方向性については、検討途上である。

1. 子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、それを広げる事業

(1) 事業実施にあたっての、連携組織の構築：海岸公園冒険広場運営委員会

地域に根差した公園運営を目指し、地域関係者を委員にした運営委員会を開催した。

- ・東六郷コミュニティ市民委員会
- ・七郷地区町内会連合会
- ・六郷小学校、七郷小学校
- ・仙台市私立幼稚園連合会若林地区
- ・六郷市民センター・児童館
- ・七郷市民センター・児童館
- ・せんだい3.11メモリアル交流館
- ・仙台市若林消防署六郷分署
- ・仙台市若林区まちづくり推進課
- ・仙台市若林区公園課
- ・仙台市建設局公園管理課、百年の杜推進課
- ・海岸公園馬術場

(2) その他、他団体とのネットワーク

- *NPO法人せんだいファミリーサポート・ネットワークとの乳幼児事業における連携（事業8.(2)(8)等）
- *仙台市遊びの環境実証実験業務における連携（都市デザインワークス、西公園プレーパークの会、プレーワーカーズ、マザー・ウイング、せんだいファミリーサポート・ネットワーク）
- *海岸公園各地区指定管理者による「海岸公園運営協議会」（仙台市公園緑地協会事務局）
- *ふるさとの杜再生プロジェクト（仙台市百年の杜推進課事務局）委員
- *宮城県子ども・若者支援会議（チャイルドラインみやぎ事務局）参加
- *仙台東部エリア交流施設連絡協議会（荒井タウンマネジメント事務局）参加
- *わたしのふるさとプロジェクト（六郷市民センター事務局）参加
- *日本冒険遊び場づくり協会 地域運営委員

上記の他、事業8.の各事業実施にあたり、地域団体、NPO、児童館、市民センター、小学校等、多くの団体と連携を行なった。

2. 冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業

(1) 宮城県内外の冒険遊び場活動についての情報収集・発信

理事会を中心とした従来からの仙台市周辺の冒険遊び場活動についての情報交換に加え、他団体とのネットワーク等を通じて、被災地域を中心にひろがりを見せる県内外の遊び場づくり活動の情報を収集すると共に、活動に関心のある人たちに紹介した。

(2) ホームページのリニューアル <https://bouken-asobiba-net.com/>

情報発信力を強めるため、2022年6月法人ホームページの全面リニューアルを行なった。これにより、フェイスブックページ中心だった情報の発信は公式サイトに移行、投稿数を約3倍に増やすことができた。新ページ移行後、HP経由の問合せも大幅に増加した。

(3) 「冒険あそび場だより2021」の発行

2022年7月、前年度の活動をとりまとめて発行した。

(4) 「東日本大震災から10年の記録」の発行

2023年4月、東日本大震災発生後の活動をとりまとめた冊子「冒険あそび場から見えてきたものー東日本大震災から10年の記録」を作成・発行した。

(5) 取材・報道等への協力

事業8.を中心に、新聞や情報誌等のメディアの取材に協力した。

<新聞>

河北新報 12/19(月)《市民の輪・とびらを聞く》乳幼児に屋外体験を/冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク 他

<雑誌・広報誌等>

「ままばれ」7月号 vol.146 夏に家族でGO! 『お出かけスポット特集』(遊びに来ている保護者による紹介記事) 他

<Web> 東北・みやぎ復興マラソン 2022 応援動画
宮城県「みやぎ復興のたび」web サイト

<その他> 青葉通仙台駅前エリア社会実験期間限定 YouTube ラジオ (9/27)
せんだい3.11 メモリアル交流館「海辺のメモリアル帖 第12号」他

3. 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業

(1) 仙台市遊びの環境に関する実証実験業務

仙台市の「遊びの環境の充実」施策として、2020 年度の「仙台市遊びの環境に関する調査・研究業務」を受けて行われる実証実験業務について、NPO 法人都市デザインワークス、株式会社コトブキと共同事業体を組んで受託・実施した（当会が代表団体）。前年度中に実施した七北田公園での 1 回目引き続き屋内・屋外各 2 回ずつプレーリーダーを配置した遊び場を開催し、併せて遊びの環境のあり方についてのアンケートを行なった。

【1】	5月20日(金)~23日(月)	七北田公園(屋外)	インクルーシブ遊具も含め設置
【2】	6月24日(金)~27日(月)	出花体育館(屋内)	梅雨時期の屋内の遊び場
【3】	7月28日(木)~31日(日)	水道記念館(屋外)	自然豊かな郊外の施設の活用
【4】	9月23日(金)~26日(月)	青葉通駅前エリア(屋外)	駅前の道路空間利用の社会実験
【5】	12月10日(土)~13日(火)	元気フィールド仙台(屋内)	冬季の屋内の遊び場

2020 年度調査および本実証実験を受け、仙台市は今後の遊びの環境の充実のための方向性の一つとして、「プレーリーダーの居る日常の遊び場の普及」を挙げ、2023 年度のプレーパーク運営補助制度の創設にもつながった。 (→市HP:[「令和4年度仙台市遊びの環境に関する実証実験」について](#))

(2) 若林区六郷東部地域における「遊びの原風景」調査と、マンガによる発信

年配の方からかつての豊かな遊び経験の話を書く調査は、今年度も遊び場と並行して実施した。加えて今年度は、同内容について取材漫画家の井上きみどりさんにマンガの執筆を依頼、完成した作品を「身近なトコで、こんなに遊べる!? ~昔のコドモが遊んだ経験から、育ちの環境づくりを探る~」というタイトルで4月よりホームページでの公開を開始した。

(3) 自治体の遊び政策調査

県内の各自治体の遊び場施策について、子ども子育て施策に関する web 上の公開情報をベースに調査を行った。

4. 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業

冒険遊び場づくりへの相談のほか、遊び場づくり団体、その他 NPO、行政、学校、研究者等から寄せられる各種相談に対応、必要に応じ具体的な支援も行なった。

○地域主体の遊び場づくり支援 【ハタチ基金助成】

子どもの遊び環境づくりに関心を持ち、自ら動く人が増えることを目指し、「何かできないか」と考えている地域住民等のはじめの一歩への取組みや、すでに活動が始まっている遊び場の運営が軌道にのるための取組みの支援を行なうことを重点事業と位置づけた。ハタチ基金助成も受けてこれまで以上に力を入れた今年度は、大きく支援先がひろがり、コロナ禍で休止していた活動の再開支援も行った。

- ・六郷保育園隣接「キッズファーム」(若林区)でのあそび場展開支援 …事業 8.(2)③
- ・よへえぬまプレーパークの活動支援(宮城野区)
- ・あそびのうつわをひろげる会「あそびカフェ」(青葉区)の活動支援 10/23~月1回 計8回
- ・ふるじろプレーパーク(若林区)の再開支援 10/30~月1回 計8回

- ・六郷保育園隣接「キッズファーム」(若林区)でのあそび場展開支援 …事業 8.(2)③
- ・ふうどばんく東北 AGAIN「とみやっこプレーパーク」開催支援 4/7(金)～富谷市成田西公園
- ・大和町教育委員会「あそび場どうじょ」 10/9 大和町吉田教育ふれあいセンター
- ・松島町交通社会実験会場での遊び場 10/29・30 ※山形大学佐藤研究室との連携事業
- ・プレーパーク in リフノス(利府町) 3/30 利府町文化センター「リフノス」
- ・まるっと鶴ヶ谷「鶴ヶ谷みんなの広場で遊ぼう」4/15 同広場(宮城野区)
- ・その他、長町地区「あすとのあそびば」等 相談支援

○講師派遣等

- ・6/12(月) プレーワーカーズ「外遊びを通じて子どもに関わるボランティア連続講座」
- ・8/27(土) 仙台市「青葉通仙台駅前エリアのあり方検討プロジェクト MACHITO SENDAI」vol.3
- ・12/4(日) 大和町教育委員会 ジュニアリーダー学習会
- ・10/29(土) 南光台東子ども会育成会インリーダー研修
- ・12/4(日) 大和町教育委員会「地域学校協働活動ボランティア研修会」
- ・4/2(日) ふうどばんく東北 AGAIN「とみやっこプレーパーク」学習会

○小中学校授業等協力

- ・11/9(水)～11(金) 七郷中学校 職場体験受入れ3名

○研究者・学生からのヒアリングへの対応等

- ・11/17(木) 宮城大学地域創生学類学生「プレーパークの活動実態と発展性に関する研究」他

○視察・見学受入れ等(海岸公園冒険広場)

- ・8/8(月) 大学コンソーシアムひょうご神戸
- ・9/16(金) 東京学芸大学教育学部教員・学生
- ・11/6(日) さっぽろ青少年女性活動協会
- ・3/22(火) 白老町役場・国土交通省北海道開発局
- ・5/27(土) 日産緑化株式会社 他

5. 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業

(1) 若林区を中心とした、プレーカーを活用しての遊び場の運営(→事業8. 参照)

指定管理者として運営する海岸公園冒険広場と連携する形で、若林区六郷・七郷地域を中心に、プレーカーを活用しての巡回型遊び場を運営した。

(2) 宮城県を中心とした遊び場活動の支援(→事業4. 参照)

県内各地で始まっている遊び場づくりの取り組み等を支援するため、プレーリーダー派遣等を行った。

6. プレーリーダーの養成に係る事業

昨年度開設した北山活動ベースを、学生等も含め集まりやすい拠点として整備した上で、ミニ学習会(オンライン併用)も継続的に実施して、インターン生・ボランティア等の学生と活動者を結びつける契機とした。

(1) 講座・研修

実施日	内容	講師等	実施枠組等	対象
2022/8/26	ミニ学習会「プレーパークをつくりたい大学生、ゆうが君の話を聴こう・話そう」	当会インターン生 佐々木湧雅	「ハタチ基金」事業	ボランティア 一般
9/26	個人情報・情報セキュリティについて	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ

10/5	「子どもと遊ぶ仕事を続けてきた たかちゃんのみる『コドモのセカイ』」	当会 羽賀崇子	「ハタチ基金」事業	ボランティア 一般
11/4	避難誘導・防災あずまや設営訓練	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
11/7	子育て支援スタッフ研修①	NPO 法人 PLAYTANK 中川奈緒美氏	のびすく若林連携 事業	スタッフ ボランティア
11/8	ミニ学習会「子どもの居場所・おとなの居場所～地域で生きて、地域で遊ぶ～」	仙台市地域防災 リーダーSBL 菅野澄枝 氏	「ハタチ基金」事業	ボランティア 一般
11/26	地域の子たちがいきいきといられる遊び場・居場所づくり ～石巻「プレーパークわたのは」の事例から～	認定 NPO 法人 こどもα感ばにー 田中雅子氏	「ハタチ基金」事業	ボランティア 一般
12/5	子育て支援スタッフ研修②	NPO 法人 PLAYTANK 中川奈緒美氏	のびすく若林連携 事業	スタッフ ボランティア
12/16	ミニ勉強会「伝える力と市民活動～ライター・編集人の視点から～」	利府町まち・ひと・ しごと創造ステー ション tsumiki 葛西淳子氏	「ハタチ基金」事業	ボランティア 一般
2023/1/26	ミニ勉強会「プレーリーダーが描く『遊びの世界』...自分だからこそ描けるマンガって?」	当会 斉藤信三	「ハタチ基金」事業	ボランティア 一般
2/6	子育て支援スタッフ研修③	NPO 法人 PLAYTANK 中川奈緒美氏	のびすく若林連携 事業	スタッフ ボランティア
2/7	ミニ学習会「あそびのことはこどもに聴こう!」	認定 NPO 法人 こどもα感ばにー 佐藤和幸氏	「ハタチ基金」事業	ボランティア 一般
3/2	防災あずまや設営訓練	海岸公園冒険広場 岩淵 健史	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ 周辺施設職員
3/20	勉強会「『居場所』って? 遊びからみてみよう! ～子どもの居場所〇〇(まるまる)の実践を通して～」	一般社団法人 プレーワーカーズ 廣川 和紀 氏	「ハタチ基金」事業	ボランティア 一般

(2) インターン受入れ

- ・SOMPO 環境財団「CSO ラーニング」長期インターン生 (8 か月) 2 名 受入れ
- ・NPO 法人ドットジェイピー.jp「ソーシャルインターンシッププログラム」インターン生
…夏期 (8-9 月) 2 名、春期 (2-3 月) 2 名を受入れ

(3) 高校生体験ボランティア受入れ

- ・杜の伝言板ゆるる「高校生の夏ボラ体験」 3 名 受入れ (海岸公園冒険広場)

7. 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業

(1) 仙台市遊びの環境に関する実証実験業務 →事業 3. (1)仙台市遊びの環境に関する実証実験業務

(2) 仙台市みどりの基本計画の新計画期間の施策動向の確認・提案

「プレーパークの拡充」の記述が入ったみどりの基本計画及び、プレーパークの普及啓発、プレーリーダーの育成推進、活動の内容に応じた柔軟な公園運用などが記載された「百年の杜づくりプロジェクト推進計画 2021-2025」について、その後の検討状況のヒアリングを行なった。

(3) こども家庭庁設置に関連した施策動向の確認

こども家庭庁設置に伴い検討される居場所づくりについての事業実施見通しについて情報収集した。

8. 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業

- (1) **海岸公園冒険広場の運営** 【仙台市指定管理業務】 (株)東洋緑化と共同企業体を構成し運営)
週6日開園(毎週火曜日休園) 来園者数:約15.9万人(2022.4~2023.3)

昨年度に引き続き2022年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、感染対策の配慮を続けながらの開園となった。ただし、昨年度同様、単に管理を強めるだけではなく、遊具以外の四季それぞれの魅力の発信・遊ぶきっかけづくりなど、園内をひろびろと遊べるような工夫を行ない、感染リスクを抑えながら来園者がのびのび過ごせる環境づくりに努めた。また自主事業についても、広大な屋外空間を活用して「密」にならない工夫をしながら、積極的に実施した。

来園者からは、引き続き「室内ではなく、屋外で」遊ぶことを望む声も多い。週末や祝日だけではなく平日の利用も増えていて、大きな減少を見た2021年度と比較すると、全体的に利用は回復傾向にある。デイキャンプ場も今年度は区画定員の制限がなかったため、1区画あたりの利用人数は昨年度の4.4人からやや増え、5.4人となった。GWや芋煮会シーズンは特ににぎわった。

震災以降の重要な役割である震災伝承・防災についても、継続して取り組んだ。3月11日周辺には、来園者に防災・減災の啓発展示を行なった他、例年行っている防災あずまの設営訓練の際に海岸公園他地区の運営者に声をかけて研修の機会を提供した。2023年4月に開幕した全国都市緑化仙台フェアでも、「仙台市東部エリアの復興と賑わいに触れる旅」バスツアーを4回受け入れた。

なお、2023年3月までが4期目の指定管理期間となっていたが、2022年に実施された5期目指定管理者の募集に対し応募し審査を経て選定された。2023年4月から5年間の指定管理期間がスタートしている。

- (2) **冒険広場周辺地域で開催する遊び場**

海岸公園冒険広場周辺被災地域を中心とした巡回型の各あそび場は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でいったん休止したのち、2021年度できるところから徐々に再開してきたが、今年度は、できるだけ「継続的に訪れることのできる居場所」としての役割を強めることを意識して、規模は大きくできなくても定期的に実施することを目指した。

<若林区：七郷地域の遊び場> ①②

七郷地域では、集団移転先・復興公営住宅も多く立地すると共に、地下鉄東西線開通も受けて増え続ける住民の受け皿になっている区画整理区域を中心に、新住民同士、新住民と旧住民、各校の児童同士など多様な交流の場となる遊び場づくりを目指してきた。

今年度は、コロナ禍で休止となった七郷中央公園・下荒井公会堂での活動を継承した荒井七丁目公園での遊び場活動を継続すると共に、乳幼児親子を主対象とするてくてくプレーパークをスタートさせた。

- ① **荒井七丁目公園で外あそび! (荒井七丁目公園)** 計24回のべ890名【子どもサポート基金助成】

今年度も広報等を限定する形で小規模な実施となったが、第2土曜・第4火曜の定期開催続け、「継続的に訪れることのできる居場所」としての役割を強めた。

11月には「第一回移動式あそび場全国リレー」に参加、山形県東根市から石巻市へのバトンをつないだ。

なお、新型コロナウイルス感染症にかかる状況変化を受け、2023年度は七郷中央公園に活動の場を戻すこととし、荒井七丁目公園での定期活動は5月までとすることとした。

- ② **てくてくプレーパーク (伊在二丁目公園)** 計8回のべ453名【のびすく若林連携事業】

のびすく若林の前期剰余金活用事業として、主に乳幼児親子を対象としたプレーパークを9月からスタートさせた。コロナ禍で遊びが制限され、子育てのコミュニティの機能維持も難しくなる中、子どもの健やかな成長に必要な遊びを、地域の皆でもう一度考え「子どもたちの心身の成長」に加えて「子育ての悩みを気軽に話し、課題や問題を一緒に解決できる誰でもこられる居場所」を目指し定期開催した。

＜若林区：六郷地域の遊び場＞ ③～⑤

若林区六郷東部地区（旧東六郷小学区周辺）で被災した人の多くは、同じ六郷地域のやや内陸の場所（六郷小学校学区周辺）に移り住んだため、移転先の地区と現地再建地域の双方で遊び場活動を実施してきた。このうち、コロナ禍での休止を経て前年度再開した移転先地区の活動について、久保田東あそび場を月2回の定期開催にすると共に、六郷保育園隣接「キッズファーム」での遊び場開催を拡充することができた。

③ 久保田東あそび場（久保田東3号公園）計25回 のべ678名【子どもサポート基金助成】

防災集団移転促進事業による「六郷地区」に設立された久保田東町内会の集会所に隣接する公園での遊び場。震災により転居してきた人とそうではない人との間を取り持つ役割も含め、多世代の交流の場となることを目指してきた。今年度も広報等を限定する形での実施となったが、第2日曜・第4月曜の定期開催の形が定着し、地域の保護者からも子どもの居場所として認識されている。様々な課題を抱える親子が遊びを通して地域の子ども・大人と出会い、親子間の関係が良い方向に変化する様子が見られるような場面もあった。

④ <<連携>>六郷保育園隣接「キッズファーム」でのあそび場 計7回 のべ181名

【子どもサポート基金助成】および【ハタチ基金助成】

六郷復興公営住宅のやや北側、久保田東地区からもほど近い場所に開園した六郷保育園を運営する一般社団法人保育アートラボとの連携事業。2021年度に整備した地形は遊ぶ子の様子を観察しながら変化を続け、楽農村岡崎氏の協力を受けて設置した井戸を実際に活用しての水遊びも展開している。近隣で開催している久保田東に遊びに来ている子どもが遊びに来るようになり、常連になった小学生が友人を連れて来るなど、「地域に開かれた遊び場」としての認識がされてきている。（協力：楽農村岡崎氏）

⑤ 東六郷であそぼう（井土地区周辺）計4回 のべ87名【子どもサポート基金助成】および【ハタチ基金助成】

六郷東部の現地再建地域において実施している「遊びの原風景」調査で地域の大人から聞いた子どもの頃の思い出の話を活かす遊び場活動を、今年度も開催した。昨年同様、ひろびろした環境の中で今も地域に残る子どもの遊ぶ環境の魅力を再発見し伝えていくことを目指した。

- ・10/8(土)「稲刈り中の田んぼでイナゴとり」（しばさき農園水田）参加者4名
- ・10/11(火)「田んぼにイナゴをさがしに行こう」（井土集会所周辺）
…午前の部（井土まちづくり推進委員会との共催事業）37名 午後の部 6名
- ・2/5(日)「氷で遊ぼう」（井土集会所周辺）参加者35名

他に、せんだい3.11 メモリアル交流館共催企画「井土浜の竹竿でハゼ釣り！」を10/1(土)実施

＜仙台市宮城野区：田子西地域の遊び場＞ ⑥

⑥ <<連携>>ノキシタでの遊び場 計10回 のべ174名【子どもサポート基金助成】

防災集団移転促進事業の移転先になっている田子西地区・同隣接地区の町内会を支援する形で継続実施してきた遊び場については、コロナ禍による休止以降再開の見通しはたっていないが、連携事業として、隣接地の多目的交流施設「Open Village ノキシタ」における乳幼児親子を対象にした外遊びの機会づくりへの協力を継続、4月からは「プレーパークノキシタ」として再スタートした。

＜その他の遊び場＞ ⑦

上記の他の遊び場は、コロナ禍による休止から再開できない活動が多かったが、岩沼市玉浦地区の「楽農村」での活動については、小規模ながら再開することとなったため、開催を支援した。

⑦ <<連携>>楽農村たき火会 計4回 のべ117名【ハタチ基金助成】

岩沼市玉浦地区の現地再建区域の農家が運営する市民農園における、農地の環境を活かした遊び場「楽農村で遊ぼう」はコロナ禍で休止していたが、広報規模を小さくし、「楽農村たき火会」として再開することとなり、その実施に協力した。

(3) 他団体が実施する企画の開催支援等

コロナ禍で活動を控えていた町内会や施設の行事だったが、2021年度からは「コロナ禍だからこそ屋外の企画を…」というところもあり、状況をみながら実施する団体も増え、協力依頼も増えた。2022年度も、感染状況による中止はあったが、新しくつながった地域からの協力依頼も含め、下記9件の依頼を受けた。なおその他に、プレーカー搭載物の貸し出しのみの協力もおこなっている。

- 中荒井町内会「キッズサロン」 7/11(月)
- ドリーム幼稚園父母会 イベント協力 8/3(水) ※中止
- あらい七夕夏まつり 協力 8/11(木)
- 井土まちづくり推進委員会「井土自然環境学習会」協力 9/11(日)
- みやぎ生協 親子防災ワークショップ「まなぼうさい」協力 9/17(土)
- 若林小学校PTA 「若竹フェスティバル」協力 10/22(土) ※中止
- 井土プチマルシェ 協力 11/19(土)
- わたしのふるさとプロジェクト「第7回 鎮魂の花火」 1/28(土)
- 八本松児童館(太白区)「あそぼうさい」協力 3/18(土) (同館隣接八本松公園で)

(4) 交流サロン「縁側倶楽部」等の支援活動の実施 【真如苑寄付事業】

遊び場と連携し世代を超えた交流を目指した交流サロン「縁側倶楽部」は、今年度も広報を限定しての開催となったが、荒井東・久保田東の2か所で計9回実施した。また同時に、学生ボランティア団体 Reroots 等、他団体との連携の在り方も探った。

- ① 荒井東復興公営住宅集会所「荒井東縁側倶楽部」
 - ・9/5(月)「和布でつくる 蓮の花托」(12名参加)
 - ・11/4(月)「和布でつくる どんぐりブローチ」(10名参加)
 - ・12/5(月)「ちりめんで作る 干支『卯』」(13名参加)
 - ・2/6(月)「和布でつくる 針山」(11名参加)
- ② 久保田東町内会集会所「久保田東縁側倶楽部」
 - ・6/27(月)「和布でつくる 薔薇のブローチ」(12名参加)
 - ・8/29(月)「和布でつくる 蓮の花托」(12名参加)
 - ・10/24(月)「和布でつくる どんぐりブローチ」(10名参加)
 - ・12/19(月)「ちりめんで作る 干支『卯』」(17名参加)
 - ・2/27(月)「和布でつくる 針山」(8名参加)

(5) 「ふるさとの杜再生プロジェクト」等、沿岸部におけるみどりの再生活動への参画

「ふるさとの杜再生プロジェクト」のメンバーとして、沿岸部におけるみどりの再生活動に取り組んだ。本プロジェクトは、仙台市・市民・NPO・企業等の力を結集し市民参加型で海岸防災林をはじめとした東部沿岸地域のみどりの再生を図るものである。今年度は、同プロジェクト事業としての育樹活動等のほか、企業の社会貢献活動としての「トヨタソーシャルフェスティバル」(主催：河北新報社) 受け入れもおこなった。

なお、本年度公募された仙台市「杜の都・仙台 令和版 わがまち緑の名所100選」には、「海岸公園」が選定された。

(6) 杜々かんきょうレスキュー隊環境学習プログラム実践

杜の都の市民環境教育・学習推進会議(FEEL Sendai)の環境学習プログラムに提案を行い、幼児を対象とするプログラム「いろ色発見隊～季節のカメラマン」を5か所で実践した。

実施園	実施日	実施場所	人数
蒲町保育所	10/18(火)	七郷中央公園	23名
YMCA 西中田保育園	10/25(火)	西中田公園	20名
沖野保育所	10/26(水)	中柵東7号公園	23名
桜ヶ丘保育所	10/28(金)	桜ヶ丘公園	23名
折立保育所	11/4(金)	折立公園	23名

(7) 「のびすく若林」の運営への参画

2017 年秋に開館の親子ふれあいプラザ「のびすく若林」指定管理者の構成団体として運営（代表団体は NPO 法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク）。週 3 日プレーリーダーを配置し、隣接する若林区ふるさと広場を活用した外遊びの機会をつくっている。その実績も評価され昨年度から 2 期目の指定管理期間に入っている。

2022 年度は、2 月までは昨年度と同様コロナ禍のため事前申込・午前午後入替制での開館をしてきたが、3 月より事前予約無しで利用できるようになった（午前午後入替制は 5 月まで継続）。日常的な外遊びの取り組み「おそとのびすく」およびイベントの形をとる「のびすくプレーパーク」を引き続き継続した。館内の利用に抵抗感を感じる親子は一定数いて、その受け皿となる役割も果たした。

昨年度より月 1 回出張形式で実施している「おそとのびすく in 木ノ下公園」についても、引き続き継続している。

(8) せんだいメディアテーク展覧会「定禅寺パターゴルフ???倶楽部!!」運営協力

遊びを通して多様な人々が交流できる場を目指してアートユニット コンタクトゴンソと建築家ユニット ドットアーキテクツがつくった「パターゴルフ場」の運営に、プレーリーダーを派遣する形で協力した。プレーリーダーはどうすればもっと楽しくなるのか来場者とともに考えてルールや会場、道具をアレンジする役割を担い会場に常駐した他、遊び場づくりの専門家の立場から会場のデザインやルールづくりのアドバイスもした。プレーにつかう道具は会場にある材料を自由に使って参加者自らがつくることもできたため、そのサポートや環境づくりも担った。

9. 組織運営について

2022 年度は、前年度末に策定した中長期計画の一年目となる。同計画では「調査研究・政策提言や団体マネジメント力をつけるため、事務局体制を強化すると共に、中長期を見据えた人材の確保・育成を可能にする仕組みをつくる。職員の雇用方法や働き方についても検討を行う。」としていたが、まず今年度は、今後の事業展開を見据え、海岸公園・ネットワーク事業（北山活動ベース）・事務局の人員体制をそれぞれ見直して臨んだ。

また年度当初にホームページをリニューアルし、「ソフトバンク・つながる募金」や「コングラント」による寄付・会費の決済システムを導入するなどの基盤整備を進めた。一方、長期的な収支見通しや人材育成の方向性の検討については、今後の課題となっている。